

NAGOYA
名古屋

4月5日(土)

TKP名古屋 栄
カンファレンスセンター

基調講演

13:30 ~



緊急時における公的機関との連携

BCM(事業継続マネジメント)における現場指揮システム(ICS)の活用

財) リスクマネジメント協会評議員、社) レジリエンス協会代表 黄野 吉博

大災害時は、公的機関と民間組織がそれぞれの役割を果たす必要があることを私たちは東日本大震災で体験した。その震災時、若手員及びトモチ作戦で効果を上げ注目されている現場指揮システム(ICS)を紹介する。民間組織は、自衛隊や消防といった制服組がどのような指示系統で動くかを理解し、その活動を邪魔することなく自社の事業継続計画に取り組み、活用する必要がある。

14:50

名A1 BCPに必要な「訓練」で考えるべきこと
~MS(マネジメントシステム)への発展のために~

1

BCPを策定した組織(企業・団体)では昨今「訓練」を行うケースが増えている。組織や担当者の対応能力の向上や、現状の課題を発見し改善するため、そしてその結果としてBCPからBCMSへの発展のためには欠かすことのできない訓練だが、中にはそれらの目的を達成するためのものとは言い難い訓練も多くみられる。それはどこに問題があるのか。実際に実施された訓練において多くの組織が陥ってしまう問題点をもとに、訓練を企画・立案する際の注意すべきポイントについて解説する。

~15:20

15:30

2

名B1 在宅でできる介護
~イザという時、慌てない為に~

機フォーサイトコンサルティング 取締役 五十嵐 雅洋

~16:00

16:10

3

名A3 パワーハラスメント対策のための仕組みづくりの重要性

パワーハラスメントという言葉が一般化し、係る問題が職場に様々な影響を及ぼしている。しかし未だ何ら対策を持たない企業が多いのも事実。そこで「組織全体で取り組むべき対策の在り方」について考える。

~16:40

16:50

4

名A4 65歳再雇用義務化に潜むリスクと中小企業における対応

「改正高齢者雇用安定法」の平成25年4月施行により、各企業は対応を急がれている。本研究では、このリスクを明確にするに伴い、この改正をチャンスに捉えた中小企業に向けての提言を行う。

~17:20

名古屋企業リスク研究会 少子・高齢化リスク研究 G

名B2

福祉現場における危険予知トレーニング

1

医療依存度が高い介護サービス利用者が増加、「医療安全」は福祉の現場でも重要になった。その実現のため、危険予知トレーニングによる危険への感受性の向上、小集団活動によるチームワークを促進を通じた、福祉現場におけるリスク軽減の手法を提案する。

名古屋メディカルリスク研究会 在宅介護 G

名B3

事故予防のための介護リスクマネジメント

1

2013年11月にリスクマネジメント協会が発行した介護リスクマネジメントの実務書「事故予防のための介護リスクマネジメント」の著者泉泰子氏が、介護施設におけるリスクマネジメントをわかりやすく解説する。リスクは担当者個人ではなく組織的に管理する。そのためには、組織体制を整備することが必要である。リスクを組織的に管理するには、ヒヤリ・ハット報告書、事故報告書など各報告書をフルに活用し、施設内における情報を収集、分析し、予防対策を立案する。このセッションでは、リスクマネジメント手法や法的観点における組織としての必要なリスク対応をわかりやすく解説する。

名古屋メディカルリスク研究会 医療介護研究 G

名B3

損保ジャパン日本興亜リスクマネジメント 泉 泰子

上席コンサルタント

交流会

リスクマネジメント協会 初出版書籍

「事故予防のための介護リスクマネジメント」



リスクマネジメント協会が、発信しているリスクマネジメント情報誌「TODAY」に連載している、損保ジャパン日本興亜リスクマネジメント株式会社 泉泰子様のこれまでの記事が一冊の本になりました。連載では、医療機関、介護福祉施設を対象に、組織のリスク管理手法を取り上げましたが、本書では「介護施設の事故予防を目的としたリスクマネジメント」に内容を集約しています。「事故は組織的に予防する」「ヒヤリ・ハット報告書・事故報告書は予防対策立案のためのツールである」など、事故予防の手法をわかりやすく解説しています。介護に携わっている方は、是非ご一読ください。

書籍名： 事故予防のための介護リスクマネジメント
著者： 泉 泰子
損保ジャパン日本興亜リスクマネジメント株式会社
医療リスクマネジメント事業部 上席コンサルタント
出版元： 一般財団法人リスクマネジメント協会
定価： 2800円 (税別)



2014年度 年次大会 特別講習・研究発表会

- 3月29日(土) 東京 日本教育会館
- 3月30日(日) 大阪 大阪科学技術センター
- 4月5日(土) 名古屋 TKP名古屋栄カンファレンスセンター

リスクマネジメント協会
日本RIMS支部

TOKYO 東京 3月29日(土) 日本教育会館



Association of Risk Management Japan

OSAKA 大阪 3月30日(日) 大阪科学技術センター



基調講演

13:00~



企業の信用を守り、さらに向上させるための風評リスク管理

2014年度 RIMS理事長 Carolyn Snow

講演概要

近年、SNS(ソーシャル・ネットワーキング・サービス)の発展により、企業は新しいリスクに直面している。社員の不用意なネットでの発言や情報漏えい、企業が提供する商品やサービスへの誤解、誤情報による売上の下落。企業はこのようなリスクをどう管理すればよいのか? 2014年度RIMS理事長がネット上を含むさまざまな風評リスクへの対応策を提案する。

14:10~ 学生研究発表

(テーマ) 3Dプリンタとモノづくりの未来! - 期待と新たなリスク 3Dプリンタは単なる機械ではない。産業革命以来の企業組織によるモノづくりを取り戻すための強力なコミュニケーションツールとして急速に注目を浴びつつある。本研究では、3Dプリンタを取り巻く最近の動向を分析し、予想される近未来の社会の姿と新たなリスクを考察する。 東京経済大学&工学院大学 文理融合プロジェクト班	(テーマ) 不祥事のマネジメント 企業の存亡に関わるリスクには多くのものが考えられるが、近年の大手化粧品製造メーカーやホテルの事例に見られるように、不祥事へのリスク対応は大きなマネジメント課題である。具体的な事例から不祥事のリスクマネジメントの在り方を考える。 明治学院大学 リスクマネジメント研究グループ	(テーマ) 就職活動におけるリスク検定の有効性について - 学生視点からの考察 - 札幌学院大学経営学部にてリスクマネジメント論を受講した学生がリスク検定を受験して3年が経過した。今年度受験したリスクマネジメント研究会の学生がこれから展開する就職活動においてリスク検定を有効なツールとして活用できるかというテーマを自らの視点で検証を試みる。 札幌学院大学 リスクマネジメント研究会
----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

特別講演 14:10~ 緊急時における公的機関との連携

BCM(事業継続マネジメント)における現場指揮システム(ICS)の活用



財) リスクマネジメント協会 評議員 黄野 吉博
社) レジリエンス協会 代表理事

大災害時は、公的機関と民間組織がそれぞれの役割を果たす必要があることを私たちは東日本大震災で体験した。その震災時、岩手県及びトヨタ作戦で効果を上げ注目されている現場指揮システム(ICS)を紹介する。民間組織は、自衛隊や消防といった制服組がどのような指示系統で動くかを理解し、その活動を邪魔することなく自社の事業継続計画に取り組み、活用する必要がある。

基調講演 講師紹介

(東京・大阪)



Carolyn Snow
キャロライン・スノウ

プロフィール

キャロライン・スノウ氏は、米国フォーチュン誌のランキング100企業に選ばれたHumanaのリスクマネジメント部のディレクターである。同氏はHumanaのキャプティブの設置、オペレーショナル及びクリニカル・リスクの管理を担当している。また14年間にわたるHumanaでのリスクマネジメント活動以前は、ブローカーの最大手Aon Risk Servicesのマーケティング部長を担当、そのほかにもボール州立大学、テンブル大学、セントラル・アーカンソー大学でもリスクマネージャーとして活躍した。

	Room A	Room B	Room C
15:10 1 ~15:40	東A1 緊急時における公的機関との連携 BCM(事業継続マネジメント)における現場指揮システム(ICS)の活用 大災害時は、公的機関と民間組織がそれぞれの役割を果たす必要があることを私たちは東日本大震災で体験した。その震災時、岩手県及びトヨタ作戦で効果を上げ注目されている現場指揮システム(ICS)を紹介する。民間組織は、自衛隊や消防といった制服組がどのような指示系統で動くかを理解することにより、その活動を邪魔することなく自社の事業継続計画に取り組み、活用する必要がある。 財) リスクマネジメント協会 評議員 社) レジリエンス協会 代表理事 黄野 吉博	東B1 電力自由化とそこに潜むリスク 3.11以後「送電分離」を核とする電力改革=新たな自由化政策が推進されつつあるが、この政策では中小企業の抱える不安は解消できない。我々は「電協」の考え方をより深く論じる中から、独自の解決策を示す。 東京企業リスク研究会 エネルギーリスク G	東C1 高齢者の医療と食に関するリスク ~楽しく・幸せを体験できる医療と食~ 近年、高齢化が進む中、高齢者に関する社会的課題・問題が大きな関心事となっている。そこで、ERMの視点から高齢者の医療と食について研究を行い、その成果を紹介する。 東京企業リスク研究会 クオリティオブライフ G
15:50 2 ~16:20	東A2 緊急リスクに備える企業の経営: リスクファイナンス 企業の経営は財務状況に依存する。経営をゆるがず緊急事態に備えるために、損害保険に代表される財務的リスクマネジメントに焦点をあてる。 福岡企業リスク研究会 ローファーム G	東B2 リーダーの要件と育成に関する研究 企業が継続して存続していくには、リーダーの資質は重要であり、次代のリーダー育成も大切である。しかし企業の経営環境や時代背景により、その要件や過程は複雑となり、「こうあるべき」と結論付けるには困難が伴う。 東京企業リスク研究会 リーダーの資質研究 G	東C2 これからの地域包括ケアシステム 高齢化社会を迎え医療・介護保険給付費が膨らみ、各自治体は厚生労働省が提言する地域包括ケアシステムの導入を目指している。私たちはこのシステムの成功事例を分析し、これからの地域包括ケアシステムを提案する。 東京メディカルリスク研究会 メディカル G
16:30 3 ~17:00	東A3 実効性のあるBCP構築のための実践的な手法と適用事例 大震災以降2年間で考案したBCP簡易診断手法の適用から始め、専門的なリスク検討まで行う実践的なBCP構築手法により、実際のグローバル製造業のBCPの実効性が飛躍的に改善した。その手法と事例を紹介する。 東京企業リスク研究会 BCP G	東B3 続ISO31000の身に付く勉強方法 昨年はリスクマネジメントの国際規格ISO31000の効果的な勉強方法を研究して大成果を発表した。今年は、最大リスクは戦争であるとし、敗戦リスクを最小化した歴史上の人物、徳川家康公に学びISO31000を理解した。 東京企業リスク研究会 ISO31000研究 G	東C3 事故予防のためのリスクマネジメント 2013年11月にリスクマネジメント協会が発行した介護リスクマネジメントの実務書「事故予防のための介護リスクマネジメント」の著者泉泰子氏が、介護施設におけるリスクマネジメントをわかりやすく解説する。リスクは担当者個人ではなく組織的に管理する。そのためには、組織体制を整備することが必要である。リスクを組織的に管理するには、ヒヤリ・ハット報告書、事故報告書など各報告書をフルに活用し、施設内における情報を収集、分析し、予防対策を立案する。このセッションでは、リスクマネジメント手法や法的観点における組織としての必要なリスク対応をわかりやすく解説する。 損保ジャパン日本興亜リスクマネジメント 泉 泰子
17:10 4 ~17:40	東A4 緊急リスクに備える企業の経営: リスクファイナンス 企業の経営は財務状況に依存する。経営をゆるがず緊急事態に備えるために、損害保険に代表される財務的リスクマネジメントに焦点をあてる。 福岡企業リスク研究会 ローファーム G	東B4 業績向上のためのリスクマネジメント ~RMで分かる成長タイミングと市場規模~ RMは事業目標に影響を与えるマイナス面ばかり見がちであるが、プラス面をマネジメントすることで業績向上が可能である。新製品投入から成長タイミング、市場規模の拡大まで、RMが実現する業績向上について解説する。 東京企業リスク研究会 RMイニシアティブ G	東C4 東日本大震災の復興に向けた環境と食の安全について 東日本大震災をきっかけに発生した福島第一原発事故は、2年半を経た現在でも問題が続いている。当グループは12、13年度に引き続き、放射能汚染の土地の安全、食の安全についてその後の状況と問題を追跡調査する。 大阪企業リスク研究会 行政リスク G